

令和元年度
テクノエイドワーキンググループ
活動報告書

令和2年5月

テクノエイドワーキンググループ

1. はじめに

テクノエイドワーキンググループ（以下、テクノ WG）は、千葉県千葉リハビリテーションセンター（以下、センター）におけるテクノエイドセンター構想の具体化のために、平成 21 年 12 月より活動を開始した。

令和元年度は、福祉用具研修会の開催、センター内各部署への福祉用具相談支援、千葉県福祉機器展への出展及び各作業班の活動を行った。本報告書では、令和元年度のテクノ WG の活動の詳細を報告する。

2. 令和元年度福祉機器展示室の利用状況について

平成31年4月1日から令和2年3月31日までの利用状況を報告する。なお「福祉機器展示室 鍵貸出簿」の記入に基づき集計したため、鍵貸出簿への記載が無い利用は含まれていない。

展示室の利用回数は合計257回であった(図1-1)。3月の利用回数が最も多く34回であった。一方、9月は利用が少なく11回であった。1ヶ月の平均利用回数は22回であった。

延べ利用者数は733名であった(図1-2)。4月の利用者が最も多く122名であった。4月は福祉機器展示室を利用した外部向け見学、内部向け研修が多く実施されたため、他の月よりも利用者が多かった。1ヶ月の平均利用者は58名であった。利用者の内訳は、理学療法士が176回(68.5%)と最も多く、ついで作業療法士66回(25.7%)、看護師5回(2%)であった(図1-3)。

利用目的は、患者への試用131件(51.0%)、用具返却50件(19.5%)、見学(外部)17件(6.7%)であった。(図1-4)試用した用具は、車椅子66件(25.7%)が最も多く、ついでリフト42件(16.4%)、入浴用具37件(14.4%)であった。(図1-5)

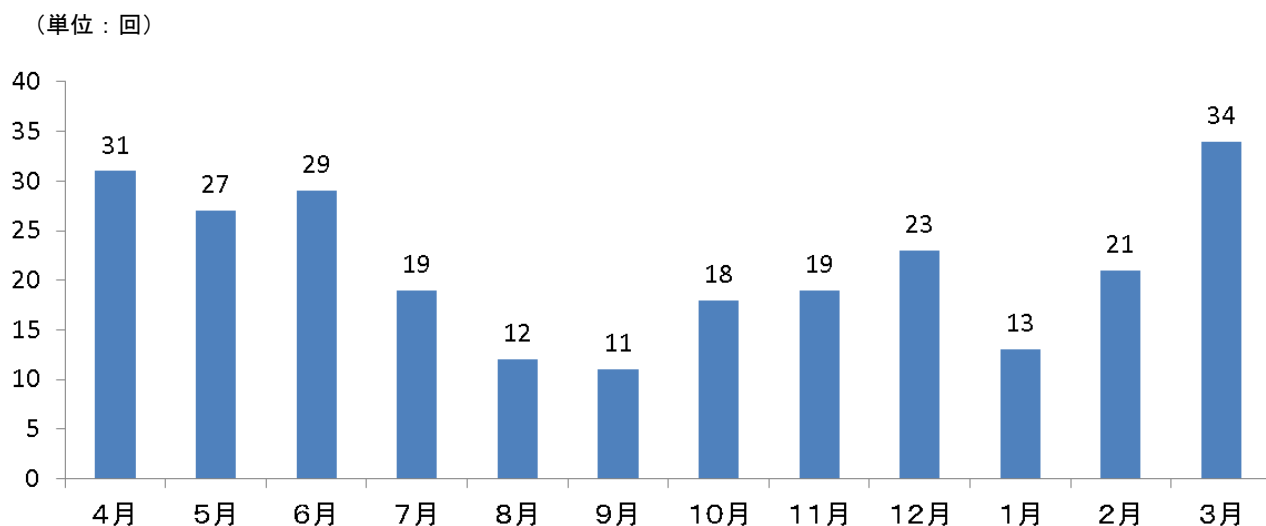


図1-1 利用回数 合計257回

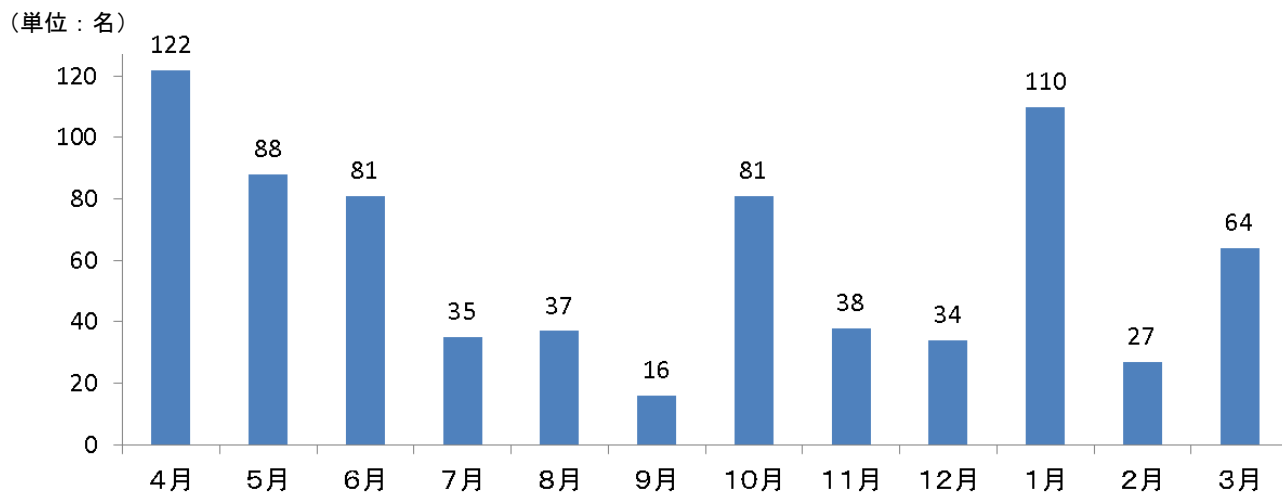


図 1-2 利用人数 合計 733 名

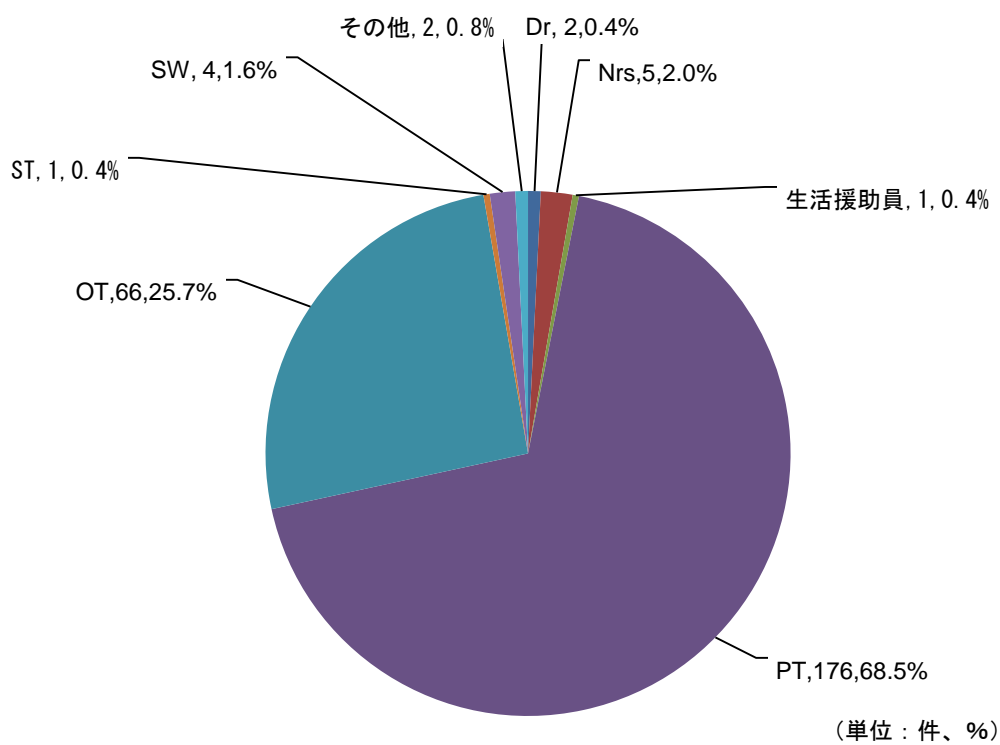


図 1-3 職種合計 計 257 件

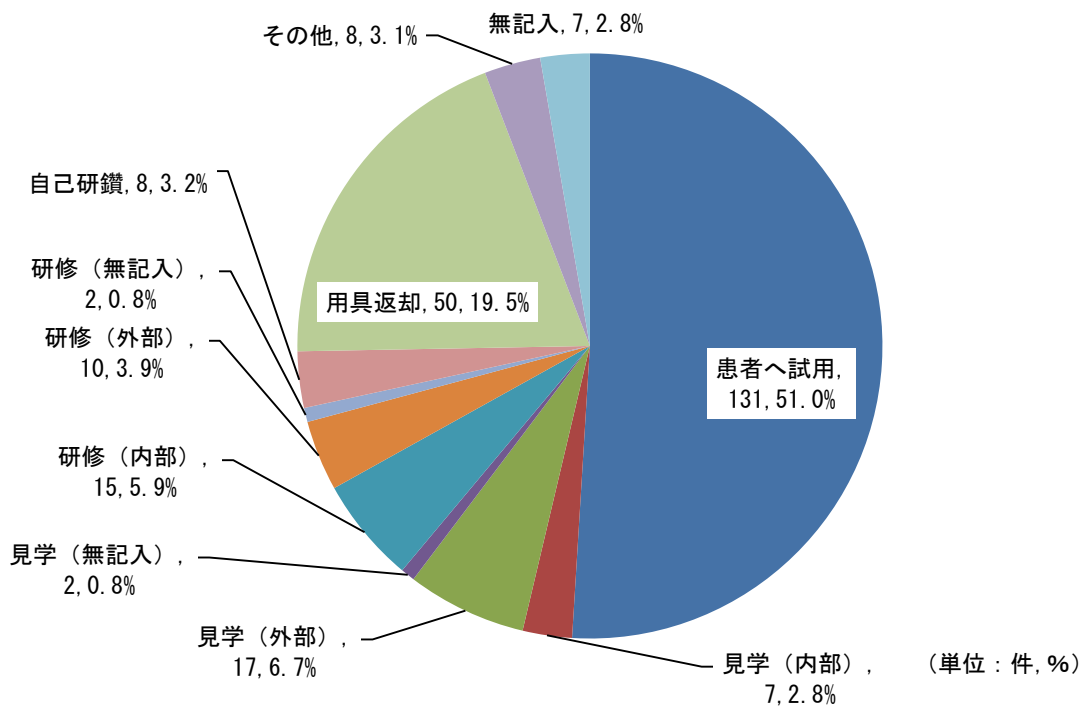


図 1-4 利用目的 合計 257 件

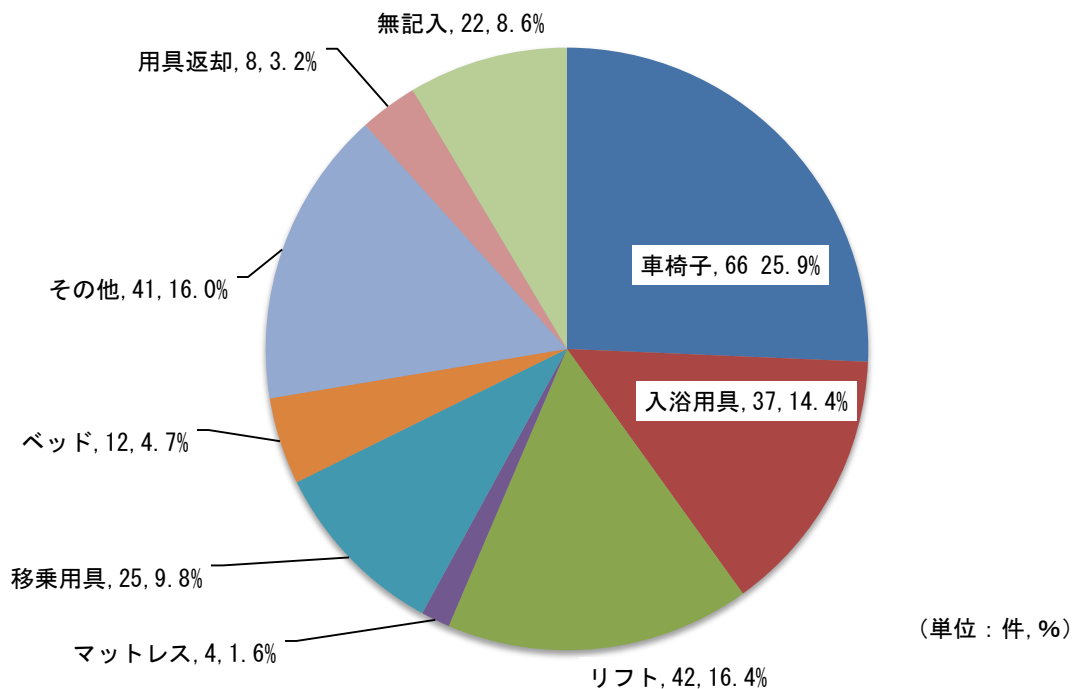


図 1-5 利用目的 合計 257 件

3. 各作業班の活動報告

(1) ベッド、トランスファーボード、車椅子班（成人 PT）

◆主な活動内容

- 病棟内トランスファーボードを新規物品に変更
- センター内の車椅子のメンテナンスを実施
- トランスファーボードを使用した移乗研修会の開催

◆今後の課題

- 移乗介助等に関する研修会の頻度が目標回数に比べ少なかった

(2) 入浴、排泄、環境制御装置班（成人 OT, 小児 OT）

◆主な活動内容

- 入浴、排泄、環境制御装置、自助具に関する相談業務の強化とデータの集約
- 新たな用具・機器に関する情報収集・提供
- 3D プリンターを使った自助具作成、認知症者への福祉用具支援の研修を目的に国立障害者リハビリテーションセンター研究所福祉機器開発部へ見学
- 自助具パンフレットを作成し、1階リハビリ室、3C 病棟に設置
- 3D プリンターに関する情報収集をし、科内で勉強会開催。また、訓練用具や自助具などを作成
- 福祉用具展示室に回転式シャワーチェアー、はねあげくん、iRemocon を要望し、同製品に関する勉強会を開催
- Power Assist Glove の臨床研究（株式会社ダイヤ工業との共同研究）
 - 研究期間：2017年10月6日～2019年3月31日
 - 実績報告：第56回日本リハビリテーション医学会学術集会 ポスターセッションで発表
- ゆー楽さんと簡易浴槽ミニ等入浴補助機器のデモ研修会
- コミュニケーションツール等 ICT 関係の研修の開催
- 認知症関連の福祉用具研修会を企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催延期

◆今後の課題

- 福祉用具使用に関するデータの蓄積方法の検討
- 認知症関連の福祉用具研修会の開催
- コミュニケーションエイド、環境制御装置の啓発、導入及び導入事例の収集

(3) 小児 PT

◆主な活動内容

- 1BC 病棟のベッド上でのポジショニングクッションの選定
 - 病棟の共用クッションの検討および選定を行った。今年度は試験的に導入し、次年度以降も継続する予定
- 1BC 病棟のベッド臥床時の体圧測定
 - 褥瘡発生リスクの高い患者の体圧測定を実施し、必要に応じてクッションやマットレスの調整を行った
- 1BC 病棟、2B 病棟の移乗用リフト導入に向けた相談業務
 - 各病棟のリフト移乗対象者を選定し、移乗用リフトの導入の提案、支援、相談対応
 - ◇ 介入例) ・人工呼吸器使用者 ・床上臥床対応の方

◆今後の課題

- 人工呼吸器使用者、高柵ベッド使用者や床マット使用者など、ケースにより特有の環境があるため、ケースに合わせた福祉用具選定が必要
- リフトの新規導入を検討している在宅療養者向けの案内資料作成

(4) リフト班

◆主な活動内容

- 1BC 保育士向けリフト勉強会の開催
- 第 14 回千葉県福祉機器展 2019 でリフト体験会を実施

◆今後の課題

- リフト研修会の対象者が限定的であったため、腰痛対策の一環として新人や異動者問わず、職員向けリフト勉強会を定期的を実施すること

(5) マットレス班

◆主な活動内容

- マットレスのデモ・研修

◆今後の課題

- SR ソフトビジョンの使用普及（どこの病棟スタッフでも普段から使用できるように）
- 褥瘡対策委員会とのマットレス選定時の協働
- 新しいマットレスの使用方法、選定（対象患者）の啓発

(6) 制度班

◆主な活動内容

- 外部からの相談項目の記録に「補装具」を追加設定
- 相談内容はベッドやマットレス等の福祉用具の他、車椅子・補装具作成等であった

(7) 外部班

◆主な活動内容

- 福祉用具貸与事業所、メーカーに協力依頼をした各種研修会の連絡調整を実施
- 国際福祉機器展 2019 に参加し、最新の福祉機器の情報収集
- 第 14 回千葉県福祉機器展 2019 出展に向けた準備と運営

◆今年度の課題

- センター外部向けの相談対応体制の整備

4. 体圧測定について

- 体圧分布センサーSR ソフトビジョン（全身版）を備品要望として購入し、患者・利用者の褥瘡予防およびシーティング、ポジショニング検討のための体圧測定環境を整備した。リハビリテーション療法部、看護部を中心に使用している。

5. センター内の相談体制強化について

- ◆センター内の福祉用具に関する相談を電話・メール・直接で対応した

主なものは下記の通り

- リハ療法部：
個別リハビリに立ち会い、リフトやマットレス、移乗支援用具等の選定アドバイス
- 看護部：
病棟備品購入時の福祉用具選定のアドバイス（スライディングシート、トランスファーボード、ポジショニングクッション）。移乗用リフトの設置に関する相談支援
- 褥瘡対策委員会：
褥瘡予防・ケアマニュアル「車椅子クッション選定参考基準」の作成
- 総務部：
センター見学者への福祉機器展示室の紹介・説明対応
- 福祉局：
職員向け移乗用リフト研修会の実施

6. 研修等

センター職員を対象に福祉用具に関する資質向上を目的に各種研修を実施した。

- (1) 日時：令和元年 5 月 13 日
内容：トランスファーボードを使用した移乗介助研修会
講師：地域リハ推進部 太田
参加人数：25 名
- (2) 日時：令和元年 7 月 29 日
内容：SR アクティブマットレス「体圧ブンさん」デモ・研修会
講師：住友理工株式会社
参加人数：2 名

(3) 日時：令和元年 8 月 26 日

内容：入浴補助機器のデモ・体験会

講師：アビリティーズケアネット株式会社

参加人数：14 名

(4) 日時：令和 2 年 1 月 8 日

内容：リフト研修会

講師：リハ療法部 宇津木・川原・神保 福祉局 相澤

参加人数：16 名（1BC 病棟スタッフ）

(5) 日時：令和 2 年 1 月 22 日

内容：リフト研修会

講師：テクノ WG メンバー

参加人数：10 名（1BC 病棟スタッフ）

(6) 日時：令和 2 年 2 月 5 日

内容：リフト研修会

講師：テクノ WG メンバー

参加人数：4 名（1BC 病棟スタッフ）

(7) 日時：令和 2 年 2 月 26 日（水）

内容：視線入力装置、環境制御装置、スマートスピーカーの体験会）

（トビー、eyemot、ipad や PC のアクセシビリティ機能、iRemocon、googlehome 等）

講師：リハ療法部 三屋・川原

参加人数：15 名

7. 現在の課題、及び次年度の目標について

現在の課題、及び次年度の目標について下記3点を挙げる

(1) センター職員の福祉用具使用技術の向上

福祉用具を積極的に導入する事例が増えて来ており、センター職員の福祉用具技術の向上が望まれる。特に移乗用リフトの使用ニーズが増えているため、テクノWG主催の研修コースを立ち上げ、福祉用具使用技術の標準化を目指したい。

(2) 福祉機器展示室の機能強化

センター各部署からの福祉用具に関する相談件数が年々増加しており、内容も多様化している。そのため、現状のニーズに合わせた福祉用具を展示する必要性がある。また、継続的に各部署へ福祉用具に関する相談窓口を周知する。

(3) 外部からの相談機能の構築および情報発信機能の強化

外部者向けの相談機能の確立を目指したい。また、ホームページの整理や千葉県福祉機器展などへの出展を通じて、県下への福祉用具に関する情報発信をしていきたい。

部署	氏名
看護局	赤 枝 寛 子
看護局	池 田 克 枝
成人療法室 第一理学療法科	北 郷 仁 彦
成人療法室 第一理学療法科	海 沼 慶 明
成人療法室 第二理学療法科	後 藤 拓 也
成人療法室 第一作業療法科	舌 間 葉 子
成人療法室 第二作業療法科	神 保 和 正
成人療法室 第二作業療法科	川 原 佑 亮
成人療法室 第二作業療法科	岡 本 美 希 子
小児療法室 理学療法科	金 坂 一 篤
小児療法室 理学療法科	宇 津 木 隆
小児療法室 作業療法科	三 屋 邦 明
小児療法室 作業療法科	中 井 麻 梨 子
福祉局 療育支援科	相 澤 浩 美
補装具製作施設	浦 田 敦
地域リハ推進部	田 中 康 之
地域リハ推進部	後 藤 達 也
地域リハ推進部	太 田 直 樹

令和元年度 テクノエイドワーキンググループ活動報告書

令和2年5月